



⑧発信する ⑨追究する ⑩粘り強く ⑪つながる ⑫思いや願いを実現しようとする ⑬課題解決する

感謝の気持ちを忘れずに

校長 許斐 真也

ここ数年短くなった秋も深まり、学校では5日開催予定の運動会に向けて練習が仕上げの段階を迎えています。今年度もお知らせの通り分散開催で実施しますが、「きょうだい学年」で行います。運動会の取組についてはもちろんのこと、日頃より、保護者・地域の皆様には本校の教育活動に対しご理解・ご協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。

また、この11月は「初音が丘小学校創立60周年記念月間」と位置づけ、さまざまな活動を行います。子どもたちの発案で実施を決めた「初音60周年ラリー」や本校卒業生であるピアニスト、鬼武みゆきさんのご厚意で行う記念コンサート、そして26日にはコロナ禍で制限の中での実施ですが創立60周年記念式典を行います。運動会も含め、環境整備のためにPTAサポート委員さん、おやじの会のみなさんが先月26日に除草作業を行ってくださいました。28日には、ご参加くださった保護者の方々が環境委員会の児童とともに「はつね花いっぱい活動」に取り組んでくださいました。重ねてお礼申し上げます。子どもたちには自分の活動に満足するとともに、60年間にわたる学校の変化や、様々な人たちの初音が丘小学校に対する思いにふれることができ、考えることも多かったのではないかと思います。皆様には今後ますますお世話になります。これからもどうぞ、よろしくお願いいたします。

創立60周年事業の取組について考えた際に、過去の記念誌の中に第1回卒業生の方の寄稿を見つけました

「(中略)当時は周りの住宅はごくわずかでした。正門前の山(今の地区センターからバイパスまで)はブナ・ナラ・クヌギなどの木々が多く、夏にはカブトムシ・クワガタ・タマムシなどがたくさんとれました。校庭横には小川があり、ドジョウ・カメ・ヤゴなどもいました。学校にはまだ体育館がなく、校庭も今より広がったようです。ただ、学校ができる前が水田だったせいか、雨がふると校庭がどろどろになって、みんなで砂を入れるなどしていました。」(原文のまま)

当時の、より自然が豊かな、ちょっとセピア色があった情景が思い浮かびました。また、新しい学校ができ、そこに通うことができる喜びと、先輩方をはじめとする、学校に関わる皆さんに、学校をよりよくしようとする気持ちがあふれていたことと思います。その思いがあってこそ、今の初音が丘小学校があることを心に留めてほしいと思います。

毎年、運動会で子どもが力いっぱい運動する姿には心を打たれるものがあります。同時に、その子ども一人ひとりの陰で、ご家族をはじめとたくさんの方が見守り、応援してくれていることを思い起こさずにはられません。体育着を洗濯してくれる、力が出るようにおいしいご飯を作ってくれる、疲れているときには声をかけてくれる…。自分のことを気にかけてくれる人がいるということに気がつき、感謝の気持ちをもつことができる子どもになってほしいと思います。